

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について

光市教育委員会学校教育課

調査の概要

- 1 目的** 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 2 調査期日** 令和5年4月18日（火）
- 3 調査対象** 光市立小学校第6学年児童（11校） 光市立中学校第3学年生徒（5校）
- 4 調査内容** (1) 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語） ①と②を一体的に出題。
- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容
- (2) 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。
- ・達成感、規範意識、自己有用感等
 - ・ICTを活用した学習状況
 - ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
 - ・学習に対する興味・関心や授業の理解度等

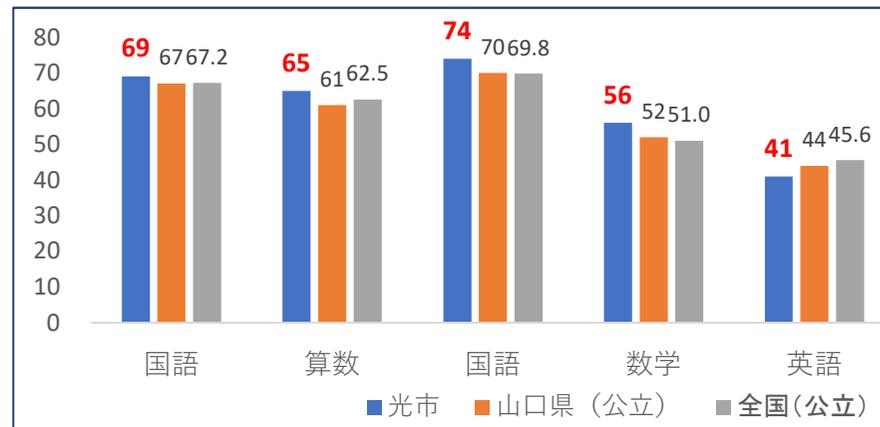
教科に関する調査結果

1 結果と分析

(1) 本年度の結果（平均正答率（%））

※平成29年度から、都道府県・市町村における平均正答率は整数値で提供

	小学校6年		中学校3年		
	国語	算数	国語	数学	英語
光市	69	65	74	56	41
山口県（公立）	67	61	70	52	44
全国（公立）	67.2	62.5	69.8	51.0	45.6



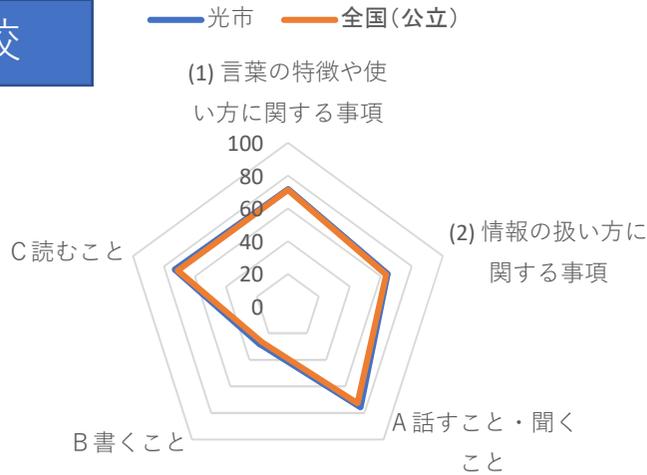
(2) 平均正答率の推移（令和3年～令和5年度の3ヶ年を通して）

※全国平均を100とし、数値の差を表したもの。

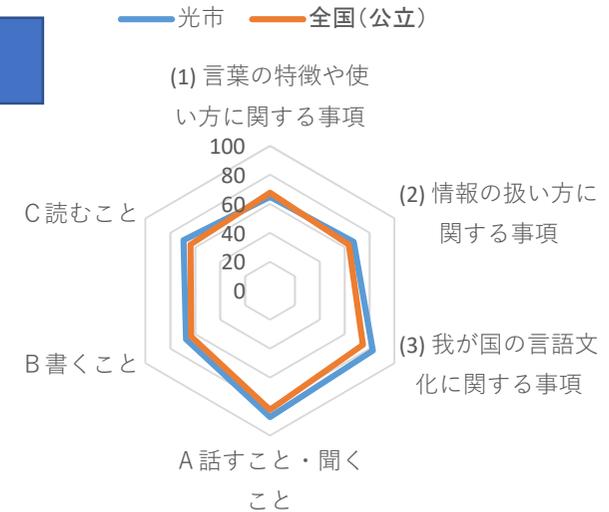
	小学校			中学校			
	国語	算数	理科	国語	数学	英語	理科
R3	100.4	101.1	-	102.1	108.3	-	-
R4	97.6	96.5	99.5	107.2	105.1	-	105.5
R5	102.6	104	-	106	109.8	89.9	-

領域別結果（国語）

小学校



中学校



		平均正答率(%)			全国平均との差
		光市	山口県(公立)	全国(公立)	
全体		69	67	67.2	1.8
知識 および 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	71.7	70.9	71.2	0.5
	(2) 情報の扱い方に 関する事項	64.5	63.3	63.4	1.1
	(3) 我が国の言語文化に 関する事項	-	-	-	-
思考力	A 話すこと・聞くこと	75.8	71.8	72.6	3.2
判断力	B 書くこと	28.7	26.7	26.7	2.0
表現力	C 読むこと	73.1	71.6	71.2	1.9

		平均正答率(%)			全国平均との差
		光市	山口県(公立)	全国(公立)	
全体		74	70	69.8	4.2
知識 および 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	64.8	66.1	67.5	-2.7
	(2) 情報の扱い方に 関する事項	67.2	62.7	63.4	3.8
	(3) 我が国の言語文化に 関する事項	82.6	76.3	74.7	7.9
思考力	A 話すこと・聞くこと	87.2	83.3	82.2	5
判断力	B 書くこと	67.3	62.8	63.2	4.1
表現力	C 読むこと	69.4	64.5	63.7	5.7

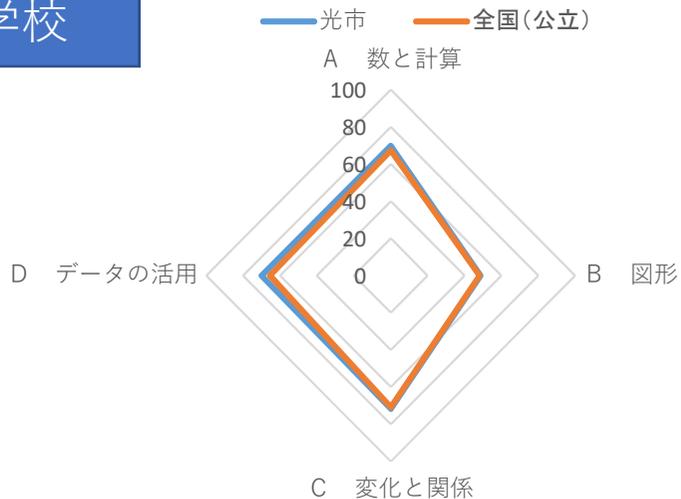
○各校の授業において対話的な学びを重視し、他者の視点や異なる立場の考えを取り上げ、話し合いを通して自分の考えを明確にできるよう学習活動が展開されている成果が表れていると考えられる。

「書くこと」について、条件作文などの短時間学習や、授業における学びの「振り返り」やなどに力を入れた取組を継続していく。

○「(1)言葉の特徴や使い方に
関する事項」については、文脈上の言葉の意味や漢字について再確認する活動を充実させながら、根拠を明確にして書いたり、描写をもとに登場人物の心情の変化を捉えたりする言語活動を引き続き充実させていく。

領域別結果（算数・数学）

小学校

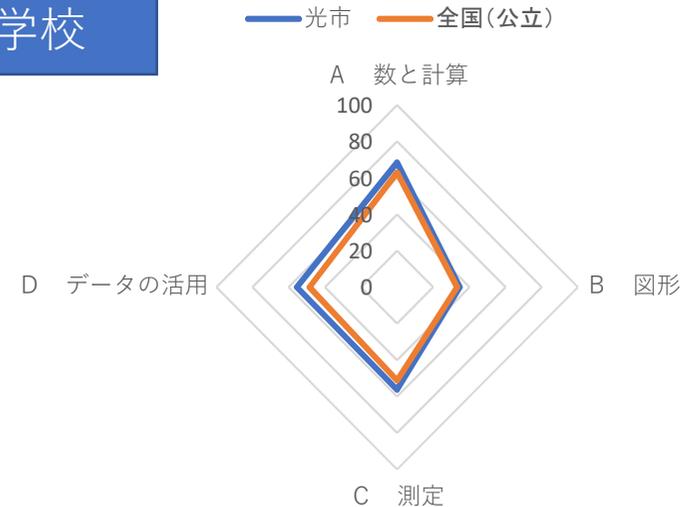


	平均正答率(%)			全国平均との差
	光市	山口県(公立)	全国(公立)	
全体	67	61	62.5	4.5
A 数と計算	69.8	66.2	67.3	2.5
B 図形	48.7	45.7	48.2	0.5
C 測定	-	-	-	-
C 変化と関係	71.8	69.4	70.9	0.9
D データの活用	70.0	64.6	65.5	4.5

○「データの活用」領域において、日常生活の事象の中から必要なデータを収集し特徴や傾向を読み取ることができている。

「図形」の領域については、図形を構成する要素やそれらの関係を捉えていく学習活動を充実させる必要がある。

中学校

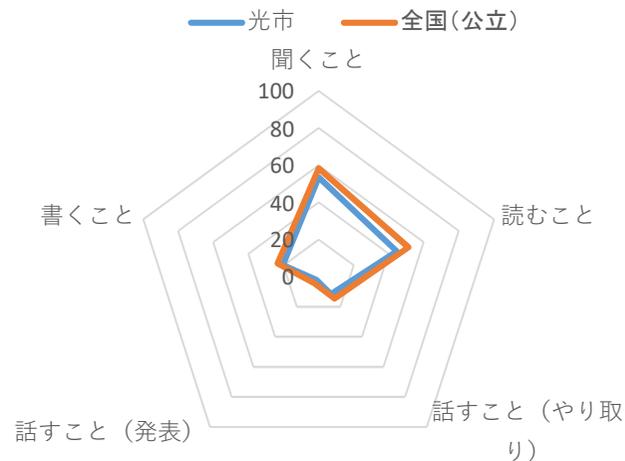


	平均正答率(%)			全国平均との差
	光市	山口県(公立)	全国(公立)	
全体	56	52	51	5
A 数と計算	68.5	65.4	63	5.5
B 図形	34.7	31	33.2	1.5
C 測定	56.3	50.5	51.2	5.1
D データの活用	55.5	50.5	48.5	7

○小学校同様に「データの活用」領域に成果が見られる。引き続き複数のデータの分布に着目し、比較したり説明したりする言語活動に取り組むとともに、「図形」の領域においては、図形を構成する要素に着目した学習活動の充実を図る。

領域別結果（英語）

中学校



	平均正答率 (%)			全国平均との差
	光市	山口県 (公立)	全国 (公立)	
全体	41	44	45.6	-4.6
A 聞くこと	53.5	55.7	58.6	-5.1
B 読むこと	44.5	50.3	51.2	-6.7
C 話すこと(やり取り)	11.6	-	14.5	-2.9
C 話すこと(発表)	2.0	-	4.2	-2.2
D 書くこと	20.3	21.7	23.4	-3.1

○「読むこと」においては、特に必要な情報を読み取ることに課題が見られる。目的や場面・状況等に応じて、また、複数の情報の中から必要な情報を読み取る学習活動の工夫・改善が求められる。

「書くこと」については、文法事項を理解して正確に書くこと、「話すこと」については、即興で思いを伝えることに課題がある。日常的な話題に関して読み取ったことについての考えとその理由を書き、発表するなど、領域を統合した言語活動の充実が求められる。

児童生徒質問紙の結果

①子どもの意識に関する質問

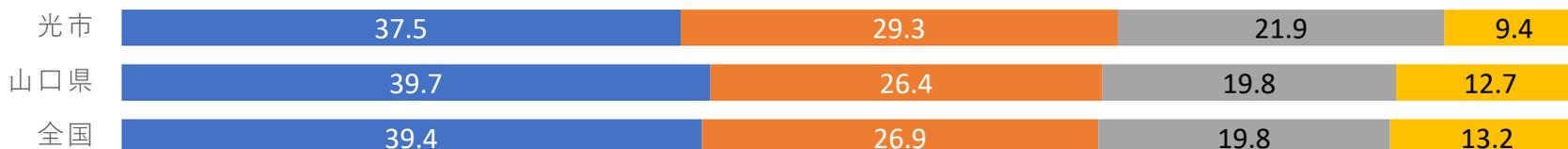
■当てはまる ■どちらかという当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない

将来の夢や目標を持っていますか

小学校

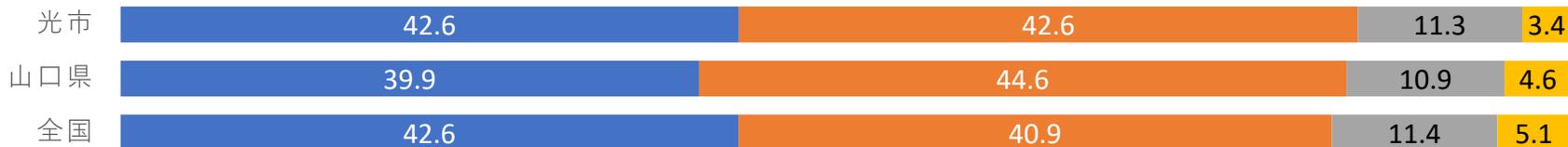


中学校



自分にはよいところがあると思いますか

小学校



中学校



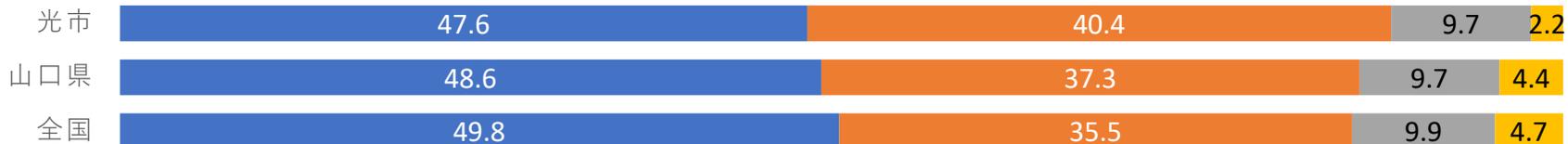
児童生徒質問紙の結果

①子どもの意識に関する質問

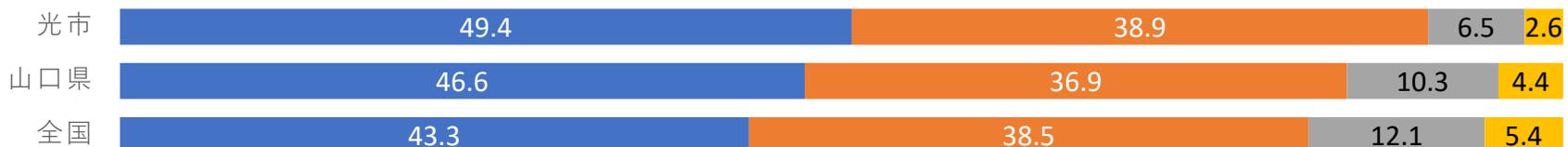
■ 当てはまる ■ どちらかという当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

学校に行くのは楽しいと思いますか

小学校



中学校



「自分にはよいところがあると思いますか」、「将来への夢や目標を持っていますか」、「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に肯定的に回答している児童生徒の割合は、全国平均や県平均と比較しても高い。

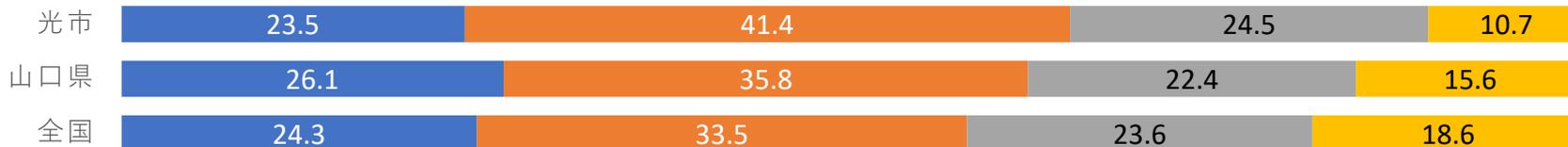
各校においては、普段の学習はもとより、コロナ禍の中でも感染拡大に配慮しながらコミュニティ・スクールの機能を生かし、行事等の活動を工夫して実施されてきたことにより、地域の方々から子どもたち一人ひとりのよさが具体的に認められたり、適切に評価されたりすることをおして、自己肯定感・自己有用感等が高まっていると考えられる。

児童生徒質問紙の結果

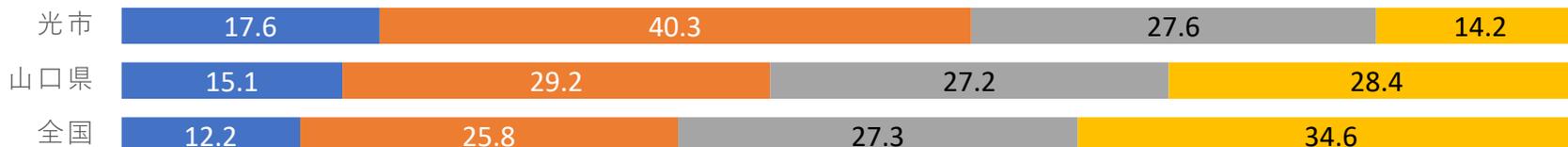
②地域との関わりに関する質問 ■当てはまる ■どちらかという当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない

今住んでいる地域の行事に参加していますか

小学校



中学校

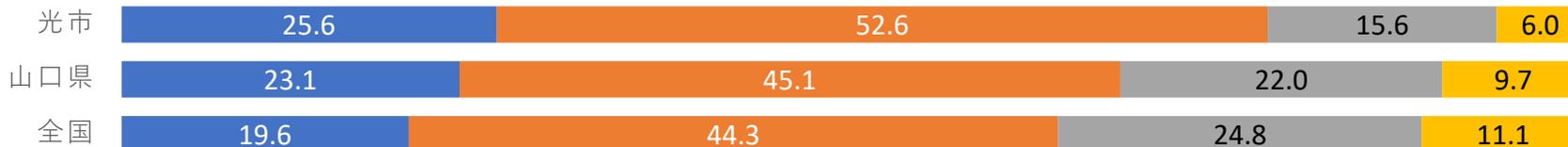


地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

小学校



中学校



児童生徒質問紙の結果

②地域との関わりに関する質問 ■当てはまる ■どちらかという当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない

人の役に立つ人間になりたいと思いますか

小学校



中学校



「今住んでいる地域の行事に参加していますか」、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」という質問に「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、全国や県と比較しても高い。特に、中学生の地域貢献に対する意識が高い状況にある。光市が進めるコミュニティ・スクールの取組の成果であるといえる。

今後も地域とのつながりを大切にするとともに、「社会に開かれた教育課程」の一層の充実を図り、主体的に社会に参画しようとする意識や態度の醸成に努めていく。

児童生徒質問紙の結果

③授業改善に関する質問

■当てはまる ■どちらかという当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

小学校



中学校

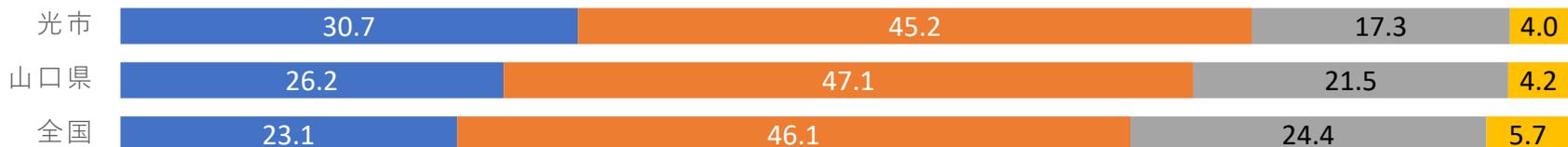


学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

小学校



中学校



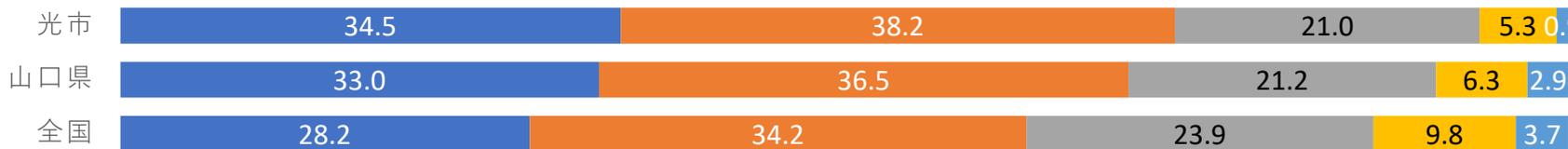
児童生徒質問紙の結果

③授業改善に関する質問

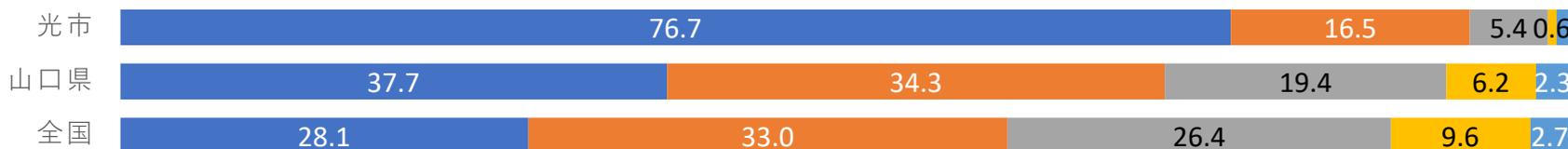
■ ほぼ毎日 ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満

コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか

小学校



中学校



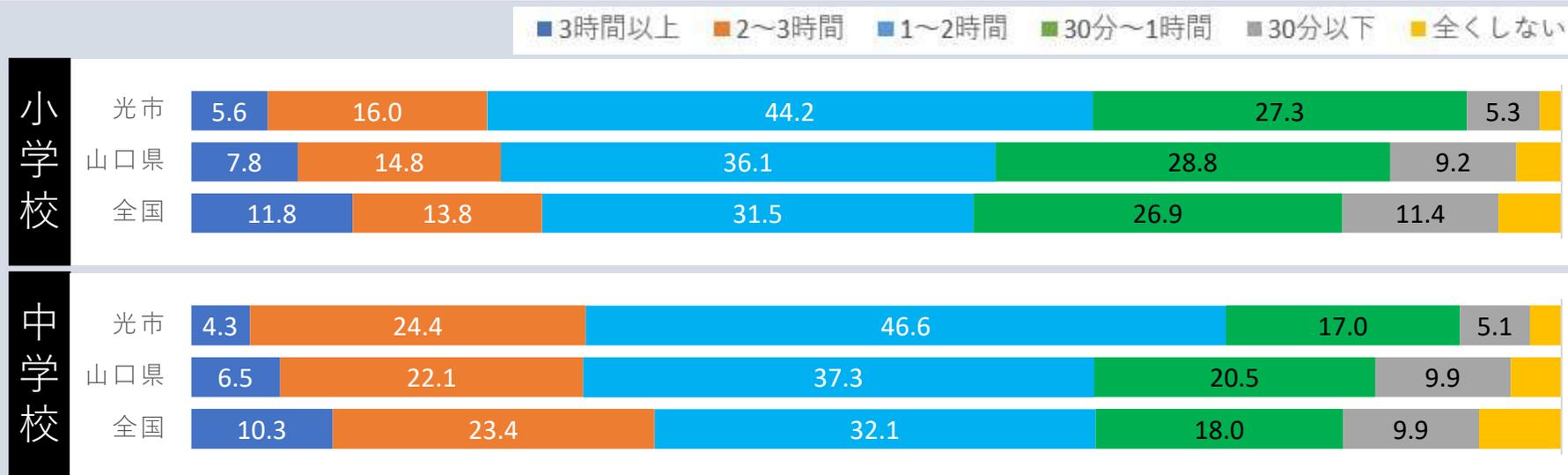
「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」、「学習した内容について、分かった点、分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問に、肯定的に回答した割合が小学校では全国および県を下回っているのに対し、中学校はどちらも全国、県を上回っている。小中一貫教育の中で、小中が連携した指導方法等の改善を図ることが求められる。

ICTの活用頻度については全国および県を大きく上回っており、各校での一人一台タブレット端末の活用が定着していると考えられる。特に中学校では、日々の授業のほか、短時間学習やデジタル図書の閲覧、学校行事など、様々な学びの場面において日常的に活用されている。引き続きICTを効果的に活用しながら授業改善に取り組み、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりにつなげていく。

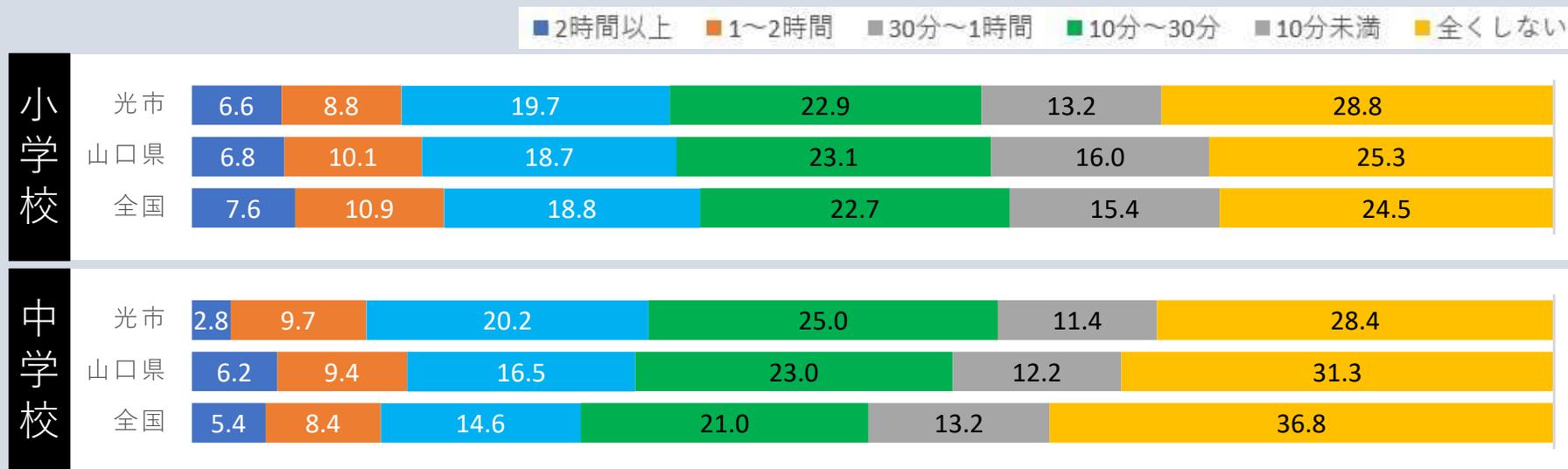
児童生徒質問紙の結果

④家庭での学習習慣に関する質問

平日一日当たりどれぐらいの時間勉強をしますか（学習塾・家庭教師・インターネットを活用した勉強時間を含む）



学校の授業時間以外に、普段一日当たりどれぐらいの時間読書をしますか



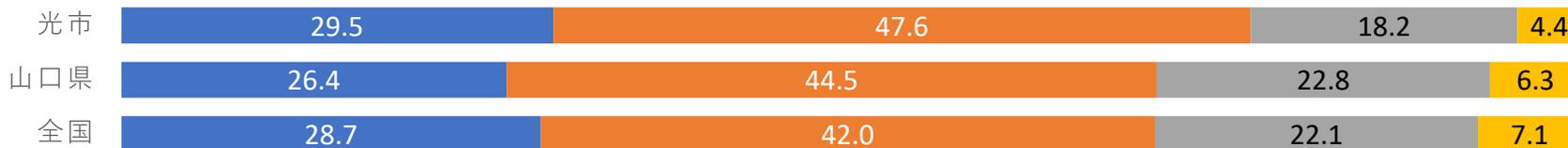
児童生徒質問紙の結果

④家庭での学習習慣に関する質問

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）

■ 当てはまる ■ どちらかという当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

小学校



中学校



家庭学習の時間については、平日に3時間以上勉強している割合は小・中学校とも高くないものの、1～3時間勉強している割合は全国や県より高い。また、自分で計画を立てて勉強している児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国平均を上回っている。自ら学びを調整できるようになるためにも、計画的に家庭学習を行い、自己の目標を達成していく力は今後重要になること、また自分で計画を立てて勉強している児童生徒は教科に関する調査の正答率が高い傾向が見られることから、今後も引き続き、家庭教育との連携を密にし、家庭学習の習慣の定着と内容の工夫に努めていく。

読書については小学校の不読率が上昇していることから、小学校における全校読書の実施や読み聞かせの機会の確保等、引き続き、読書活動の充実に取り組んでいく。